



主催者代表挨拶

碓井 栄喜

アルミニウムと健康 連絡協議会

ただいまより第2回アルミニウムと健康フォーラムを開催いたします。

まず、このように多数の方々にご来場いただきまして、厚く御礼申し上げます。

アルミニウムは、非常に軽い、耐食性にすぐれる、いろいろな特徴があり、航空機、鉄道、車両、自動車等の輸送機材、そして皆さんよくご存じの飲料缶、それから建設材料などに、現在では世界で年間2,000万トン以上、日本国内でも年間400万トン程度が消費されています。量産が始まってからまだアルミニウムは100年程度の歴史ですが、特に最近ではあき缶の回収に代表されるように、たいへんリサイクル性にすぐれるということが認められて、資源保護の観点からも切り札になる材料と考えられています。

私たちはアルミニウムを供給する立場から、その健康とのかかわりについても大きな関心を持っていて、国際的な連携をとりながら情報収集を進めて、科学的な事実を皆様にお知らせしたいということで活動を続けております。

アルミニウムは、地球の地殻の中で、酸素、シリコンに次いで3番目に多い元素です。われわれ人類は、およそ400万年ぐらい前に誕生したと言われていますが、その誕生の当初から、食物やあるいは環境を通じてアルミニウムを摂取してきたと考えられます。このように環境や周囲に、ある意味ではありふれている、そういうアルミニウムがアルツハイマー病と関係があるのかということも含めて、とにかく事実を明らかにすることが最も重要である。そのように考え、いろいろな分野の先生方の講演、討論を通じて、今何がどこまでわかっているのか、あるいはどういうことが課題なのかということを明らかにするため、科学的な事実に基づいた議論の場を設けたいということで活動してきました。

ちょうど4年前の第1回のフォーラムでは、アルミニウムとアルツハイマー病の關係に絞って、「アルミニウムがアルツハイマー病の危険因子」という説の根拠となっていた透析脳症と比較して、その結果、病理学的変化がその形態および分子レベルにおいてアルツハイマー病とは異なるということがわかりました。しかしながら、飲料水の疫学的な問題、あるいは毎日食べている食品中のアルミニウムの人体への影響などについては十分な議論ができませんでした。そこで

今回のフォーラムでは、経口摂取、口を通じて摂取するアルミニウムがどういふふうに吸収され、代謝されるか、そして、人体への影響はどうかということを中心に、専門の講師の方々に講演をお願いしております。

ここで一つお断りとおわびを申し上げなければいけないのですが、講師をお願いしていました英国のエドワードソン先生から、病氣療養のため来日できなくなったという連絡を2月末にいただきました。そこで急遽プログラムの変更を検討して、エドワードソン先生と同じイギリスから参加いただいておりますウィリアムズ先生の講演を延長して、疫学的な問題を含め、アルツハイマー病とアルミニウムの英国における歴史的なことなどを追加して講演していただくことにしました。それから、前回のフォーラムでは最後のパネルディスカッションの時間が若干不足していましたので、こちらの方も延長して十分議論していただくようにさせていただきました。当初ご案内した内容が変更しておりますが、どうか最後までご静聴いただきたいと思います。

司会につきましては、前回のフォーラムと同様、大阪大学の武田雅俊教授をお願いしています。先生は痴呆症の精神生化学的研究、特にアルツハイマー病の病因そして診断法や治療法などの研究がご専門です。

それでは武田先生、よろしくお願いいたします。

